



# かんぼれん

～カンボジアの友と連帯する会～ **38号 2022.12**

## かんぼれんの基本的理念

かんぼれん代表 ポネット ビセンテ

2001年に、イエズス会社会司牧センター主催で、第1回のカンボジアスタディーツアーが行われました。

そして2003年の第3回スタディーツアーの時、皆さんがご存じのように、初めてイエズス会サービスカンボジア (JSC) シソポンの事務所を訪問しました。

彼らの毎年の活動計画、その実行についての詳細なレポートなどを見て、ツアーの参加者全員が一致して、その活動を支援しようと決意しました。

そして、その決意を具体化するために、私たちの支援の基本的理念 (めざすもの) を決めました。

### 「人間を中心とした」支援

JSC シソポン事務所は、カンボジアの北西地区、タイとの国境近くにあり、最も貧しい地域の一つである Banteay Mean Chey 県にあります。

その事務所のスタッフは、できる限り村長と住民から、情報や協力を得て、小さな村々の最も貧しい人々や家族を調査します。

それは、人間が住める最低のものにもなっていない小屋に住んでいる家族、何らかの援助 (家族のためのお米、通学用品、通学用の自転車、少額の奨学金など) がないと学校に行かれない子どもたち、車椅子を買えない貧しい障がい者などです。かん

ぼれんは、その最も貧しい人々を中心にするため、スタッフの皆さんの活動を通して、金銭的な援助をするだけではなく、毎年、スタディーツアーの時、直接に、彼ら何人かに会っています。

私たちの支援は、「人間を中心とした」ものになるために、もう一つのことを大事にしようとしています。それは、JSC スタッフとの信頼関係です。彼らが計画したプロジェクトについて、疑問のあるもの、私たちには大切と思われないものについてなど率直に話し合っています。たとえば、ある時にラジオ教育プログラムに関して疑問を持った私たちに、その結果のデータをもって意義を説明してくれました。また、それほど貧しくない方に騙されて車椅子を与えたという一件があったときに、それを隠さずに認めて、その車椅子を返してもらいました。

JSC シソポンが活動する Banteay Mean Chey 県や周辺には、支援がなければ自立のできない人、家族はまだたくさんいます。これからも皆さんと共に彼らを支援していきたいと、強く望んでいます。よろしく願いいたします。

